

## 自然の摂理～「循環とバランス」そして「個と集団」

世の中に直線はありません。こうお話しするとおかしいと思われるかもしれませんが本当のことです。

一部を取ると直線なのですが、これが続くと円になっていくのです。この宇宙には直線というもの無いのです。すべてが「循環」になってしまいます。これがすべて。

人工衛星でも「循環」という軌道に乗らなかった衛星はどっかにいってしまいます。すべて、循環しないものはそれで終わってしまうのです。私たちの命も、自分が生まれてから死ぬまでのわずかな期間で考えるからわからないのです。この命というのは永遠に続き循環しているのです。直線ではありません。円となってつながっていなければ永遠に続かないのです。分子も回り続けます。宇宙に星がいっぱいありますが、これは絶妙のバランスで小宇宙をつくられて、またその小宇宙が無数の小宇宙とこれまた、絶妙のバランスをとり、その中で回っている中の星々なのです。私たちが見ているものは単なる太陽系の小宇宙。こういう宇宙が無限にあり、それらがお互いにバランスをとっているのです。

動物を見ているとよくわかるのですが、集団でバランスをとって生きている生物はズーッと生き残っています。ところが個々で生きる、一匹とかわずかな群れで生きる生物はやがて滅びて行くように思えます。虎とか豹だとか、強いけれどもバランスがとれない生物。だんだんと数が減っています。ところが小さいけれど、アリとか魚のイワシだとか集団で生きている連中はなかなか滅びません。私は人間もそうだと思うのです。個人の自由、権利は基本的に大事な事です。しかしこれも、行き過ぎてこればかりやっていると滅びて行くように思えるのです。自由や権利は大事な事ですが行き過ぎれば、対立を生み出しやがて人類も破滅の危機に直面する事になるのかもしれない。軍国主義や社会主義、これがだんだんと衰退し、やがて滅んでしまうのは、上からの押しつけのため、組織のバランスが崩れてしまうからです。そこで自由主義がいいと台頭しますが、自由主義と個人主義は綿密な関係で、そこを履き違えると、これも対立を生み出します。本当の自由主義とは、お互いがバランス取ってゆくという、上とか下ということではなく、お互いが尊重し共存していくという生活だと思うのです。太陽と地球を較べて太陽が上で地球が下とか、男が上で女が下だとか。そういう比較ではなく、それぞれが個性を出し合い、協調しお互いのバランスを取って生きていくとう、これが本当の姿だと私は思うのです。そして、日本人にはそのことが最も強く心の中に刻まれていると信じています。(春日大社元宮司で医学博士、葉室頼昭氏(故人)の著書「真実の世界の話」から抜粋、追補)

